

2023年6月2日

岐阜県知事 古田 肇 様

長良川の環境改善を求める要請書

よみがえれ長良川実行委員会 共同代表 粕谷 志郎
亀井 浩次

貴職の河川行政へのご努力に敬意を表します。

今年2月、河村名古屋市長の突然の「徳山ダム導水路容認」表明に関連し貴職は、「速やかに検証作業を終え、事業を進めることが望まれる」との意思表示をされました。しかし、同事業による長良川の環境悪化への県民の危惧は払しょくされていません。「検討の場」においては県民の声を反映させ「事業中止」の立場を表明してください。

いま長良川では「国土強靱化」政策の下、大々的に河川工事が進められていますが、あまりにも環境・景観を無視したやり方に「やりすぎ」との不安と怒りの声が出ています。このままでは岐阜県の看板「清流の国ぎふ」も降ろさざるを得ないでしょう。ただちに工事の進め方を見直してください。

また、美濃市横越地区では、河川のまん中に堤防を築き「貯水池」をつくるという理解に苦しむ「遊水地」計画が進められています。地元住民は左岸堤防の破堤の不安とここに棲む貴重な生き物への影響の心配から計画に反対する声を上げています。本事業の「河川環境調査検討会」でも「しっかり検討して見直すべき」との議論があり、現場の声を反映させる検証が求められます。

長良川河口堰が閉鎖されて28年がたちます。河口堰は海と川を行き来する生き物の大きな障害となりました。長良川のアユは、人の手を借りなければ子孫を残せていない状況となっています。サツキマスは、昨年中卸売市場に出たのがわずか3匹という驚くべき報道もあります。河口堰の速やかな開門調査を求めます。貴職は開門による農業塩害の危惧を理由に、開門調査に背を向けておられますが、4年の開門調査を経て昨年2月に常時開門を始めた韓国ナクトンガン河口堰では、河口から15kmに位置する農業取水門を念頭に入れたゲート操作をし、汽水域環境を復元しています。長良川の環境をよみがえらすために、開門調査にご尽力ください。

内ヶ谷ダム建設は工事途中で判明したダムを支える岩盤の亀裂補強（2019年）やダム下流左岸斜面変状対策（2022年）などで次々と工事費が増額され、当初計画の2.8倍にも膨れ上がっています。今後の増額も心配です。もともと費用対効果に疑問のある事業です。不要不急の内ヶ谷ダム建設事業はいったん中止し再検討すべきです。

以上のことを踏まえ、下記の要請に応じて頂くようお願いいたします。

記

1. 徳山ダム導水路事業を即時中止するよう「検討の場」において求めてください。
2. 住民の意見を置き去りにした横越「遊水地」計画の強行はしないでください。
3. 「国土強靱化」の名のもとに、生物多様性保全を蔑ろにし、環境・景観に無配慮の河川工事は止めてください。
4. 長良川河口堰の開門調査の実施に向けた検討を行ってください。
5. 内ヶ谷ダム事業を再検討してください。